

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL.112 (年4回発行)

■発行日 令和6年6月30日
 ■発行 三春まちづくり協会
 ■編集 三春まちづくり協会広報部会
 三春町大字貝山字泉沢100-1
 TEL/FAX (62) 3988

『地域で支えあう協働のまちづくり』 ―令和六年度三春まちづくり協会―

本協会においては、会則の定めにより毎年総会を開催して、予算、事業、役委員の選出、その他重要事項を協議いただいております。本年度は四月二十四日に開催され、全ての議案において賛成多数をもって可決されました。

相川協会長

あいさつ要旨



協会長 相川 義則

本日は、年度はじめの大変お忙しい中、また、足元の悪い所、三春まちづくり協会の、総会に出席いただき、誠にありがとうございます。

また、坂本町長様、企画政策課様には、公私共にご多用の中、ご出席いただき、感謝申し上げます。

今年の滝桜は昨年よりは少々遅く四月五日に開花宣言があり、連日多くの観光客が街中を散策して頂きました。

今は新緑が美しい落ち着いた街となっています。

新型コロナウイルスが五類に移行され、平常の生活に戻り、

一堂に会しての会議が開催されたことは大変有意義で喜ばしいことです。



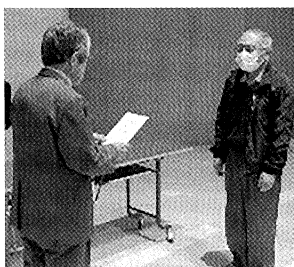
総会における協会長あいさつ

コロナ禍で各種行事が中止や延期など行動制限があり継続の難しさを痛感しましたが、この機会をチャンスに新たな発想と行動で、三春まちづくり協会の更なる発展につなげていきたいと思っております。

また、少子高齢化の社会、地域で支えあう、協働のまちづくりが求められております。地域住民との対話が重要です。地区のサロン等でご尽力を頂いておりますがなお一層のご尽力を

お願いします。

今年度の活動方針等について審議して頂き、歴史あるわが街が安全で安心して暮らせる街、町民が誇れるまちづくりに、三春まちづくり協会が寄与出来るようお願いいたします。



委嘱状の交付

結びに、健康には十二分に注意し地域発展の為、今後ともご協力を宜しくお願いし、簡単ではありますが、挨拶に代えさせていただきます。

坂本町長

あいさつ要旨



三春町長 坂本 浩之

令和六年度の三春まちづくり協会の総会の開催、誠にありがとうございます。

滝桜観桜の有料期間が四月十七日で終わり、その時点で来場者数が十三万人、去年が十二万八千人でした。その後の無料期間で土日もありましたので、十三万五千人ぐらゐの見学者と聞いております。昨年より若干増えたことになりました。そのうち有料入場者が十万人にわずかに届かない九万九千人余りでした。

観桜料、去年の三百円から今年から五百円に値上げした影響を心配しておりますが、それほど大きな影響はなかったと総括しております。

同時に、三春町内にも多くの観光の方が来られ、三春も常にこんなに人がいるといねという話をあちこちで聞けたというのが今年の特徴でありました。

今年の大きな事業として、モンベルストアの建設、岩江認定こども園の建設の最中で、どちらも来年の春オープンですので、万全を期して進めていくことが一つ。

また、十年に一度の長期計画更新時期に当たります。今年度は平成二十六年に始まった第七次長期計画の最終年となりますが、当時、どういった町にしたいのか皆さんの意見を積み重ねてで

きた七次計画であり、その振り返りと検証を行い、そして来年から第八次長期計画ということになります。長期計画では、町の方では基本となる人口がこのぐらゐになりそうだというデータは提供させていただきませんが、地区単位で、自分たちの住む地域がどうあつていくべきか、どういふふうになつて欲しいかというのを、まちづくり協会と蜜に相談をさせていただきながら作成したいと思っております。

まちづくり協会ができて四十年ぐらゐになるかと思ひます。全国的には、助け合いの組織というような話もあります。小学校区単位の地域の協議会が続々とできております。三春町は先輩格になります。

少子化高齢化が加速する時代に入つてきますが、そういった中、活気のある三春町を作るにはどうしたら良いかというお話を出していただき、町としても議題などを出しあいながら、第八次長期計画を策定してまいりますので、どうぞよろしく願ひいたします。



三春まちづくり協会の
部会活動

事務局長

三春まちづくり協会には、生涯学習部会、環境部会、福祉部会、地域部会、街並部会、広報部会の6つの部会があり、それぞれがテーマに向かって活動しています。

そこで、令和五年度の活動を紹介します。

■生涯学習部会

活動テーマは「夢を持ち豊かな心が育つまちづくり活動」であり、これに向かって次のような活動をしました。

○児童生徒の安全を守る活動・登下校の児童生徒に対する見守り隊活動と一声あいさつ運動を部会の活動として地域と実施。

○三春小学校放課後まほらっ子教室に対し遊具代の助成。

○詐欺被害防止講演会の開催（講師・田村警察署刑事生活安全課係長）

特殊詐欺の手口等の説明や注意点を教えていただき

役員名簿	
職名	氏名
協会長	相川 義則
副協会長	大内 長久 小池 清美
大町委員長	五十川 一政
中町委員長	永井 久
八幡町委員長	大内 長久
荒町委員長	渡辺 裕
北町委員長	渡邊 渡
新町委員長	先崎 正之
八島台委員長	人見 正司
監事	渡辺 正明 人見 正司
生涯学習部長	平山 聰
環境部長	渡辺 州広
福祉部長	村上 伸治
地域部長	橋本 好美
街並部長	佐久間 保一
広報部長	目黒 知希
専従嘱託員	佐久間 覚

ました。参加者が少なかつたのが残念でした。
また、地域でのあいさつ、交流は犯罪予防につながるのとは、今も昔も変わらないものだと再発見しました。

■環境部会

活動テーマは「誰もが暮らしやすいまちづくり活動」であり、これに向かって次のような活動をしました。

○視察研修として、環境創造センター「コミュニティ福島」に行ってきました。

展示物がリニューアルされており新たな体験ができました。ふくしまいきものサーチというコーナーでは、童心に帰って映像の中に隠れている福島に分布する希少な生き物などを不思議な虫眼鏡で探していました。

■福祉部会

活動テーマは「元気で健康やかに暮らせるまちづくり活動」であり、これに向かって次のような活動をしました。

○ふれあいの集いへの開催協力・各字で開催している「ふれあいの集い」に予算の

範囲内で助成しました。

○三春町健康づくり推進員として推薦し、「三春町健康づくり推進員活動」に協力しました。

○部会員によるマチトレ見学を実施し、利用者登録の現状、トレーニング機器の整備状況などを視察しました。また、若い人の利用者を期待する意見などの提案も行いました。

○一般救急法講習会（心肺蘇生、AED取り扱い）について田村消防署三春分署員を講師に行いました。

三春分署には救急車が1台あり、救急車の要請から到着まで、三春町では20分かかることもあるとの話を伺い不安を抱きました。

○健康づくり事業として、（医）のざわ内科クリニック野澤先生を講師に、「生活習慣病のリスクを知り、健康寿命を延ばすためには？」をテーマに講演をいただきました。

福島県は塩分摂取量11gと多く、男性が全国1位、女性が全国2位であり、名誉でない上位であるとガツカリしました。

■地域部会

活動テーマは「みんなが築くつながりのあるまちづくり活動」であり、これに向かって次のような活動をしました。

○散策路踏査として、今年

度は紫雲寺散策路（花の丘公園ルート）を踏査し、危険箇所や案内標識の確認をしました。

町内には七つの散策路があり、部会では年度ごと一程度踏査しています。

○踏査では紛らわしい案内標識を改修しました。

○例年秋、散策路ウォークを開催し、「紫雲寺散策路」を三春観光ガイドの会の案内で歩きました。

女優の綾瀬はるか命名の「はるか」という桜や、国内に二つしかないマンホール蓋（下水道に繋がっていない）を見たりして楽しめました。

■街並部会

活動テーマは「地域の特徴と資源を生かした活力あるまちづくり」であり、これに向かって次のような活動をしました。

○「河野広中生誕地」石柱設置…ここ数年懸案であった河野広中生誕地について、確信的な生誕地の特定は困難な現状を踏まえ、最も相応しいと思われるところに設置することとしました。

○三春秋まつりで、石柱パネルを掲示し「石柱拓本ラリー」「石柱すごろく」を行いました。

町内には36基の石柱が設置されています。ラリーは、その石柱の上部の刻字を拓本するものです。

石柱すごろくは、町内

の地名を読むゲームですが、難しかったです。
○石柱の清掃を秋まつりに合わせて、事前に実施しました。

■広報部会

活動テーマは「情報を共有し協働するまちづくり活動」であり、これに向かって次のような活動をしました。

○協会活動を広く町民に知らせる取り組みとして、年四回「三春わが街」の作成をしています。

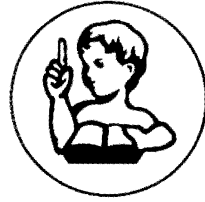
原稿集め、部会員による校正、業者発注と地味ではありますが、大変忙しい部会だと感じています。

昨年度の部会活動（事業）は目標達成できています。

ただ、区長さん方からも耳にする「役員のなり手不足」は、まちづくり協会も例外でなく、部会員となっても、会合や研修に参加できない方が非常に多い状況です。

また、女性が活躍する社会と言われている世の中でありながら、協会員となれる方が少ないのも現状です。どうか、気兼ねなく参加して頂きたいと願っています。

最後は、ボヤいてしまいましたが、これからもよろしく願っています。



田村高校教科書取扱店
本.CD.DVD.TVゲーム

カネサン書店

田村郡三春町大字貝山字岩田53

TEL62-2046
FAX61-1072

http://www.e-hon.ne.jp/SHOP24278

認知症の方 寝たきりの方
退院支援に力を入れています！

在宅介護支援住宅
多喜の家 アカネサス

ご自宅での介護、ご退院先にお困りの方
私たちがお手伝いいたします

年金内で暮らしたい
随時入居者募集中 入居保証金0円

お問い合わせ先 TEL0247-61-7333 FAX0247-61-7332
〒963-7766 田村郡三春町字中町34

初心に聴く

■地域部会 橋本 好美

初めて三春まちづくり協会の合同部会に参加して、三春のこと何も知らない私が地域部会長に選ばれました。

三春に生まれて七十数年になりますが、本当に何も知らずに現在に至ってしまいました。町内には多数の寺院や名所旧跡があります。また、いくつもの散策路もあり、老若男女の皆さんに散策して楽しんでもらいたいと思います。

それには散策路の危険箇所や案内板、標柱など整備等して、いつでも自由に散策してもらえる様に、部会員を中心にチェックして安心安全な散策路を目指したいと思います。

諸先輩の皆さんの御指導よろしく願います。

■環境部会 佐藤 正史

環境という、職場環境

や学ぶ環境・遊ぶ環境等々、私たちの身の周りの全てが環境にあてはまると思います。

その中でも地球環境、とりわけ『自然環境』は人間だけでなく、ほかの動物や植物など地球上に存在する全ての生命に係る一番大切な環境だと思います。

私たちは、生活向上のため自然を破壊してきたため、地球温暖化をまねき、その結果各地で自然災害が多発しています。三春町の環境を考えてみても、昔と比べハチヨウ等が減っているような気がします。

一番大切な『自然環境』を守ることは子どもたちの未来を守ることであり、そのために私たちができることは、ごみを減らすこと、エネルギーの無駄使いを減らすことなど、省エネに努めることだと思います。

環境部会に所属したことをきっかけにして、改めて三春の子どもたちのためにも環境問題を見直していきたいと思います。

環境部会に所属したことをきっかけにして、改めて三春の子どもたちのためにも環境問題を見直していきたいと思います。

たいと思います。

■環境部会 山田 りつ子

「まち」と言う時、イメージする時、そこには必ず人の姿があります。

人が行き交い、話す声、そして賑わうのが「まち」の姿と言えるでしょう。

いつも車で通っていた道を歩いてみました。空き家が増えて、歩道には伸びた竹がかぶさり、雪が積もり、前の人の足あとをたどつてようやく歩く始末。

昔と大きく変わった「まち」の姿をこれからどのようにしていくのか、真剣に議論していかないと、もう時間がありません。

高齢化により、となり組の組長をやれる人が減っています。となり組を構成する世帯数がわずか3世帯という組すらあります。世帯数が多くても、組長はできないと言われる何人も飛ばした組も。仕事と組長の両立ができずに郡山に引越した一人暮らしの若い人の

例もあります。

少子高齢化で人口が減っていくのに加え、他の自治体への人口流出もあり、基本である町内会がもはや成り立たなくなってきたいます。

三春という「まち」に住んでよかったと言う人を増やすにはどうしたらいいのかわかりませんが、何が足りないのかをこれから皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

■北町区長 渡邊 渡

来年は、三春町長期計画改定の年に当たるとの事。長期計画は三春町の将来の姿を描くもので、どの様な「町づくり」が計画されるのか楽しみです。

進む高齢化と少子化、加えて止まらぬ人口減少の中、自ずと制約された計画にならざるを得ないと思いますが、今後の「わが町」を担う子供達や若者に夢のある計画が出来上がることを期待しています。

私も初めて「三春まちづくり協会」の協会員になり、「協会」の目的である「地区民の意向を尊重し、自主的活動を通じての成果を町政に反映させる」ために、機会があるたび、地区の皆さんの意見を提言して参りたいと思っています。

当北町地区には、病院や高齢者施設もあり、一人暮らし世帯等も多く、消防団はじめ地区の皆さんの協力無くして地区の安全安心は守れないものと思っております。非力ではありますが、互助や連携の一助になればと思っております。

らし世帯等も多く、消防団はじめ地区の皆さんの協力無くして地区の安全安心は守れないものと思っております。非力ではありますが、互助や連携の一助になればと思っております。

三春という「まち」に住んでよかったと言う人を増やすにはどうしたらいいのかわかりませんが、何が足りないのかをこれから皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

■広報部会 本田 圭子

はじめまして。このたび広報部会を担当させていただきますことになりました。

わからないことだらけですがどうぞよろしくお願いいたします。

結婚してから四十年近くこの地に住んでいます。が、実は幼いころ二年ほど三春に住んでいました。

お寺にあった保育園で灯笼を見てお昼寝をしたこと。泥団子を作って遊んだこと。路地裏のウコギの生け垣。

大きな蔵のナマコ壁。おつしゃま(王子神社)で思いっきりブランコを漕いだことなど。まちなかを散策していると、今でもあちらこちらでそのころの思い出がよみがえってきます。城山公園や花の丘公園など、素敵な場所がまだまだたくさんあります。古い歴史と新しい息吹を感じることができ、このまちを、いつまでも大切にしたいと思っています。

おひさま

一級建築士事務所



結建築研究室

佐久間 保一

福島県田村郡三春町八島台 7-5-13 TEL (0247) 62-1775

うやまう心に、真心でご奉仕する



菊川屋

☎963-7765

福島県田村郡三春町荒町30

☎

<0247> 62-3600

FAX

<0247> 62-1300

■福祉部会 渡辺 修二

三春まちづくり福祉部会をお願いできませんかと相談されましたが、初めてのことで、何をやるのか解らず前任者からいろいろ聴いたり資料を読んだりしました。

今町内では高齢者や單身者が増えています。

それぞれのお手伝いとか元気のお手伝いが主な活動かなと思ひ初心者ですけどできる範囲でお手伝いできればと思っています。

まず自分自身も心身とも健康でなければならぬと思ひ地域のサロン活動等に参加しております。

微力ながら精一杯活動していきたいと思ひます。

三春町は大丈夫か？

佐久間 寛

2月に「三春町公共施設等総合管理計画」【公共施設等の老朽化対策や利用需要変化に対応するため、財政負担の変化と公共サービスを持続的提供】について懇談しました。

「三春町公共施設等総合管理計画」(2022・3改訂)の概要は、公共施設等について、人口減少、少子高齢化による社会構造・住民ニーズの変化、公共施設等の老朽化による大量更新時代の到来、財政状況の悪化見通し等の環境変化を踏まえた抜本的な見直しが必要であるとしています。

公共施設等とは、公共施設いわゆるハコモノの他、インフラ施設：道路・橋梁等の土木工作物、公営企業の施設です。

三春町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(2020改訂版)で人口は減少し続けていることが確認できます。

また、令和5年12月22日厚生労働省は2050年の将来推計人口を発表した。三春町は10、419人(2020年比▽38・8%)うち65歳以上50・3%という厳しい状況です。

このことは、町税を中心とする自主財源が減少し、一人当たりの負担が増加していくことを意味しています。

令和2年度の財政状況は歳入に占める町税等の自主財源が28・5%、地方交付税等の依存財源は71・5%と、依存財源の占める割合は大きく、今後大きく変化することはないと見通されています。

一方、歳出面は、経常経費が町税、地方交付税等の一般財源の85・8%となっており、財政構造の弾力性が非常に乏しい。財政状況は今後も厳しい状況が続くものと見込まれます。

このようなことから、仮に公共施設等を耐用年数で単純更新する場合、公共施設等における充当可能財源の2・8倍になり、更新し続けることは困難であると見込まれます。

一方、長寿化等対策を講ずる場合であっても、充当可能財源の1・6倍になります。また、人口減少による将来負担費用の推計を見ると、長寿化等の対策を講ずる場合であっても一人当たりの年間負担額が現在の約2・19倍になるとのことです。

現状の予算を今後も維持した場合、施設総量縮減に伴う維持管理費の負担減を勘案しても、3〜4割程度の施設が維持できなくなります。

抜本的な見直しにより、長期的視点で廃止、更新、複合化、集約、転用、長寿化、未利用財産の売却処分等で、財政負担を軽減・平準化、公共施設等の最適な配置を実現することで、人口や財政規模に見合った施設保有の最適化を図ることです。

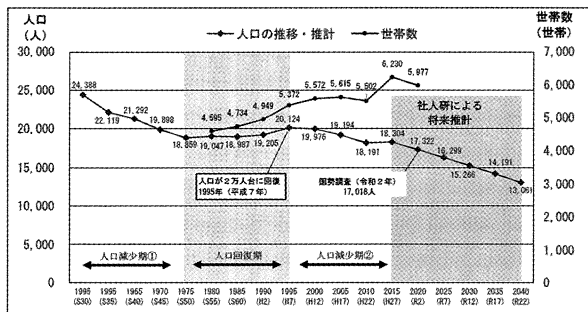


図2.1.1 人口の推移と見通し

ただ、インフラ施設は、安全安心な社会資本を提供するため、計画的・効率的な維持管理・補修を継続的に実施していく必要があり、人口減少に伴い1人当たりの負担増が見込まれるとのこと。

2014年(平成22年)発表された「増田レポート」(元総務相増田寛也)は当時各自治体に衝撃を与えました。

「増田レポート」は、「国立社会保障・人口問題研究所」の日本の将来人口推計を分析し、20代から30代の女性の人口に着目し、この層が2010年から2040年までに半数(50%)以下になる自治体を抽出しています。

この結果、896自治体を「消滅可能性都市」と呼び、人口減少が加速し、最終的には消滅する可能性があるという衝撃的な内容で警鐘を鳴らしました。

この「増田レポート」では福島県は県全体として分析し市町村別の分析はされていません。

三春町のことが気になり、いろいろなホームページを検索し、「総務省国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口、総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」を見つめました。

20歳〜39歳の女性の人口は2010年(平成22年)1806人、2040年(令和22年)741人であり愕然とした。

編集後記

▽今年も厳しい暑さを感じるようになってきた。しかし梅雨がまだこない。平年より遅いペースだ。日本気象協会のある記事によると、今年の梅雨は短期集中型になる可能性があるとのことだ。▽なぜか、その原因の1つとして今年はラニーニャ現象発生の可能性が高いことがあげられている。ラニーニャ現象発生時は太平洋赤道域の西部の海域の海水温が高くなるということが知られているが、今回は過去三十年で最も高くなる予想されている。その影響で日本の南海上で停滞している梅雨前線が一気に押し出してくるとのことだ。

しかしラニーニャと聞いて考えられる影響は梅雨だけではない。そう猛暑である。特に今年はエルニーニョ現象が発生した翌年にあたる為、暑さの相乗効果で酷暑と見込まれている。▽梅雨が短期集中で豪雨が見込まれている中で災害対策の見直しは必要であるが、その後の酷暑を乗り切る為に必要な準備、グッズの見直しなども行いたいと思う。

(目黒知希)

コミュニティだより

「三春わが街」第112号

発行日 令和6年6月30日

発行 三春まちづくり協会

編集 三春まちづくり協会

広報部 会

三春町大貫山字奥(〇一)

(六二)三九八八